

病態解析検査学演習 I (Graduate Seminar of Pathophysiological Analysis I)

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開	
森 啓至、小菅優子	1年次前期	選択	2	48	演習	あり	巻末掲載	可	
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対するフィードバック方法	<p>病態解析検査学演習 I では、神経変性疾患に対して行われている検査について、現状を把握しその意義と問題点を文献調査などから詳細に検証する。また、生活習慣病に効果があると考えられている各種の発酵食品の体調節機能や長寿に関する因子などについて特性や機能および腸活動と在宅医療への応用について討論を行いつつ学修をしていく。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。 課題に対するフィードバック方法/レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。</p>								
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」及び④「臨床検査技師の役割を探究し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。</p>								
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>1. 的確な文献検索ができる。 2. アルツハイマー型認知症診断のための検査法とその問題点について説明できる。 3. 脳腸軸と消化管の関係を説明できる。 4. 発酵食品の腸への効果を説明できる。</p>								
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>第1回～第24回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく/分からない用語については調べておく (各30分) 第1回～第24回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める/毎回の講義の復習を十分行うこと。英語論文を多く読み、読解力をつけること。(各30分)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間 (2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回) (1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回) (1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回) を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>								
授業計画	第 1 回	神経変性疾患の早期発見に関する臨床検査の現状1					森 啓至		
	第 2 回	神経変性疾患の早期発見に関する臨床検査の現状2					森 啓至		
	第 3 回	神経変性疾患の早期発見に関する臨床検査の課題発掘1					森 啓至		
	第 4 回	神経変性疾患の早期発見に関する臨床検査の課題発掘2					森 啓至		
	第 5 回	アルツハイマー型認知症の早期発見に関する文献調査と抄読1					森 啓至		
	第 6 回	アルツハイマー型認知症の早期発見に関する文献調査と抄読2					森 啓至		
	第 7 回	我が国におけるアルツハイマー型認知症対策についての調査1					森 啓至		
	第 8 回	我が国におけるアルツハイマー型認知症対策についての調査2					森 啓至		
	第 9 回	我が国での認知症対策の現状と課題の発掘1					森 啓至		
	第 10 回	我が国での認知症対策の現状と課題の発掘2					森 啓至		
	第 11 回	神経変性疾患と臨床検査法についてのまとめと発表1					森 啓至		
	第 12 回	神経変性疾患と臨床検査法についてのまとめと発表2					森 啓至		
	第 13 回	健康食品の成分と生体に及ぼす影響の解析 1 (情報収集)					小菅優子		
	第 14 回	健康食品の成分と生体に及ぼす影響の解析 2 (情報収集)					小菅優子		
	第 15 回	健康食品の成分と生体に及ぼす影響の解析 3 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 16 回	健康食品の成分と生体に及ぼす影響の解析 4 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 17 回	機能的消化管障害と栄養 1 (情報収集)					小菅優子		
	第 18 回	機能的消化管障害と栄養 2 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 19 回	健康食品管理と消化管障害に関連する在宅医療 1 (情報収集)					小菅優子		
	第 20 回	健康食品管理と消化管障害に関連する在宅医療 2 (情報収集)					小菅優子		
	第 21 回	健康食品管理と消化管障害に関連する在宅医療 1 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 22 回	健康食品管理と消化管障害に関連する在宅医療 2 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 23 回	健康食品の神経変性疾患への期待される効果 1 (ディスカッション)					小菅優子		
	第 24 回	健康食品の神経変性疾患への期待される効果 2 (ディスカッション)					小菅優子		
評価方法 評価基準	レポートで評価する (100%)								
教科書	特に定めない			参考書等		教員が資料を配布する。			
学生へのメッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。認知症は神経変性疾患が主な要因と考えられます。中枢神経系の生理学をよく学習し、脳と全身とりわけ消化管との関りについて理解してください。								